

【国語／古文】

～ClassPad.net の同時編集機能・EX-word ふせんを活用する～

知識を身に付けながら、作品を主体的に読解する授業
重要な文法事項を身に付け、作品を読み解く。

【本授業の目的・狙い・到達目標】

教師向けの目標：尊敬語・謙譲語を正しく運用しながら読解する力を身につけさせる。和歌について、豊かに解釈できるような活動をする。

生徒向けの目標：『大鏡』 「三舟の才」を読解する。文学知識や文法事項も身に付ける。

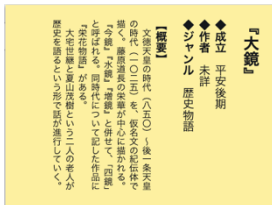
【ClassPad.net 活用によるメリット】

- ・板書時間削減：本文を板書した上で、品詞分解を書き込んでいく時間を削減できる。
- ・協働学習促進：グループで和歌の解釈を作成することで、より記憶に残る学習を行うことができる。

授業の流れ

ClassPad.net での操作

step1



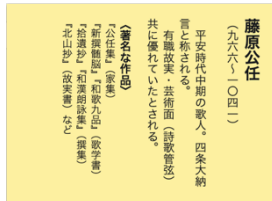
概要の説明

生徒に宿題として調べさせた大鏡の概要を生徒に発表させる。その後、授業の骨子が、作品中の和歌を自ら解釈する活動であることを伝える。
なお、宿題はデジタルノートごと回収する。

デジタルノートは、EX-word ふせんやファイルふせん、テキストふせんなど、様々な機能を使ってわかりやすくまとめることを意識させる。
授業支援機能で回収したデジタルノートの中で良いものを取り上げ、電子黒板やプロジェクターで全体に見せる。

※Ex-word 機能は有償になります。別途ご購入いただくことでこの機能をご利用いただけます。

step2

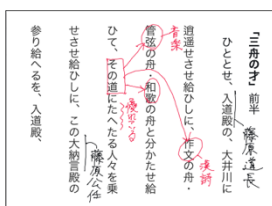


登場人物を知る

藤原公任(大納言殿)についても、予習で調べさせておく。その発表ののち、授業内でも公任の人物像について説明する。

step1 と同様に、宿題として提出させたデジタルノートの中で、登場人物について深く言及できているものを取り上げ、共有する。

step3

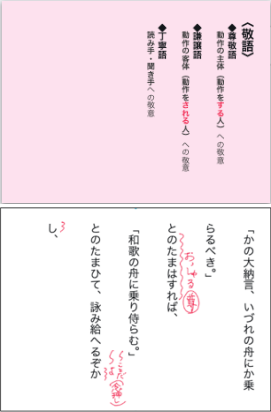


本文の読解

本文を読解していく。品詞分解をしながら読み、文法事項を適宜確認する。

本文が書かれたテキストふせんと品詞分解が書き込まれたテキストふせんを電子黒板やプロジェクターを用いて交互に映し、品詞分解を理解しながら進める。重要なところは生徒に現代語訳を作らせ、それを書いたテキストふせんをその場で提出させる。

step4



敬語の学習

本文読解の中で、重要な文法事項である敬語について説明する。

敬語について、テキストふせんと EX-word ふせんを用いて説明する。

※Ex-word 機能は有償になります。別途ご購入いただくことでこの機能はご利用いただけます。

step5

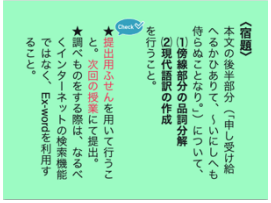


和歌の解釈

本文読解の中で、和歌を解釈する。グループワークをして、文章とイラストを用いて歌意の説明を作成させ、クラスで共有する。

デジタルノートの同時編集機能を用いて、各グループに和歌の解釈ノートを作成させる。その際、文章だけでなく、参考資料やイラストなども加えて、より五感を刺激するデジタルノートを作成するように伝える。

step6



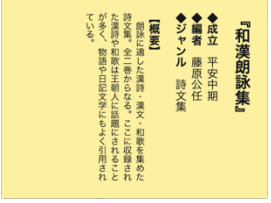
まとめ・宿題

授業で扱った文法事項をひととおり振り返り、それらを生かして本文の後半部分の品詞分解と現代語訳を作ることを宿題とする。

インターネットでの検索機能ではなく、なるべく EX-word 機能を利用させる。

※Ex-word 機能は有償になります。別途ご購入いただくことでこの機能はご利用いただけます。

step7



参考・補足

・藤原道長について
・『和漢朗詠集』の紹介
・本文の朗読

概要をまとめたテキストふせんや EX-word ふせんに提示する。

※Ex-word 機能は有償になります。別途ご購入いただくことでこの機能はご利用いただけます。